

体がしびれるー！ そんなときはどうすればいい？

正座をして足がしびれる。これはほとんどの方が経験したことがあると思います。では、心当たりがないのにしびれるときはどうすればよいのでしょうか？

Q しびれの診断は？

人体の神経系には脳、脊髄、末梢神経がありますが、理論上はどこで神経に傷がついてもしびれは生じます。ですので、しびれの正確な診断や治療のためにはたくさん情報が必要です。ただし、しびれを目に見えるようにすることはできないため、

患者さん自身に語っていただく必要があります。どこからどこまでにしびれがあるのか、しびれの強いところや弱いところがあるのか、左右差があるのか、しびれ以外にも筋力の低下等の他の症状もあるのかなどの情報から、まずどこに障害があるのかを想像します。また、いつからしびれがあるのか、急に出現したのか気づいたらあったのか、悪化しているのかあまり変わりはないのか、などの情報から、原因となる疾患が何かということを考えます。

さらには診察を行い、障害があると思われる部位を絞り込んでいきます。その上で、血液検査

Q どんな病気がある？

例外はありますが、一般的には顔を含む半身のしびれ感があるときには脳の病気を、顔を含まない半身のしびれや体のどこからか下が全部しびれるときは脊髄の病気を、手足の先のほうからしびれがくるときは末梢神経の病気を疑います。

脳の病気では脳梗塞・脳出血といった脳血管障害が代表格になります。これらはある日唐突

に発症することが多いのですが、夜中に発症して朝起きたらしびれていたというパターンもあるので注意が必要です。その他、脳腫瘍で徐々にしびれが悪化するということもあります。脳の病気が疑われるときには早期の対処が必要です。

脊髄の病気として多いのは頸椎症や腰椎症といった、背骨の変形や椎間板ヘルニアに伴うものです。実際には整形外科でももらう病気にはなりますが、最初は神経内科に受診され、診断をつけて整形外科に紹介させていただきます。それ以外には脊髄炎や脊髄梗塞などの稀な疾患も存在します。1〜数日のうちにどんな悪化するようなしびれ感が出現したときには、やはり早めに受診してください。

末梢神経障害は急性に出現するものと慢性に進行していくものがあります。急性の末梢神経障害として有名なものとしてはギラン・バレー症候群という病気があり、これは早期に対処しないと後遺症が残ることがある要注意疾患です。慢性の末梢神経

Q 対処法は？

経障害では糖尿病によるものがあります。手足の先がなんとなくしびれるような感じが出現し、徐々に感覚が鈍くなっていき、怪我に気づかなかつたり転びやすくなったり、糖尿病の危険な合併症です。それ以外にもアルコールによる障害や鉛中毒、抗がん剤の副作用などで生じるしびれ感も末梢神経の障害です。加齢に伴っても末梢神経障害が生じることがあり、高齢者であり変化しないしびれ感の原因として挙げられます。

まずは正確な診断とそれに基づく原因疾患の治療が必要です。脳や脊髄の病気であれば脳神経外科や整形外科で治療を受ける場合もあります。

原因疾患に対しても対処をしてもしびれ感が残存する場合には対症療法薬の投与を考えます。特にしびれ感が強く、痛みとして感じるような人に対しては「神経障害性疼痛」としていろいろな薬を試していきます。眠気

やふらつきなどの副作用が出やすく、継続が難しいときもあるのですが、現在病院で処方できる薬の種類はだいぶ増えており、副作用が少なく効果が高い薬があるかもしれません。もしもしびれを感じるようになったら、神経内科への受診もご検討ください。

今月の先生



岐阜市民病院 神経内科
香村彰宏 先生

- 専門分野
神経内科、内科一般
- 役職
神経内科部長
- 主な資格、認定
日本内科学会専門医
日本神経学会指導医・専門医
- 卒業年
平成15年岐阜大学医学部卒
岐阜大学神経内科・老年科 助教・臨床講師